



学校法人
鎌倉女子大学

東京オリンピック・パラリンピックの開催

2020年東京でオリンピック・パラリンピックが開催されることが決まりました。大変喜ばしいことだと思います。各国の震災復興支援に対する高円宮妃久子殿下の誠にノーブルなお礼のお言葉を初め、安倍総理以下プレゼンターの方々のこれ以上ない出来栄のプレゼンテーションに心から感激しました。こうした折にも、日本に皇室が存在することの有難さを実感します。

果報は寝て待て、「これで負けたら、しょうがないよ」と家人に言い残して寢床に入り、早朝五時過ぎにテレビをつけたところ、東京招致決定のニュースが目飛び込んできました。いや、本当に嬉しかった。

「オリンピックよりも原発事故の後処理の方が」という意見も聞きますが、勿論後処理は自律的に推進されていかななくてはならないことですが、しかしこのような国家的なイベントが想定されることによって、却って復興が加速されていくということもまた政治のリアリズムなのかと思います。だって、この事故を抑え込まなければ、政府も国民も晴れ晴れと開会式を迎えられないはずでしょう。

そこで、お願いなのですが、20年に向けて開催計画が段々明らかになっていくことと思いますので、準備期間及び開催期間を善き教育の場面、また機会と捉え、その形態は全く分かりませんが、特に学生たちにどのような協力、あるいは参画が出来るのか、調査・研究・検討をして頂けないものかと思えます。

私たちが子どもの頃に経験した1964年の東京オリンピックの時は、学校の教室などもオリンピック一色でした。レリーフを思わせる100米走のスタートダッシュに躍動する選手群や、黙々と独りで泳ぐバタフライのスイマーを捉えた写真の裾の中央に、金文字でオリンピックマークと真っ赤な日の丸、左右にTOKYO1964とあしらわれたポスターが貼り出されていたものですが、今はスポンサー契約などがやかましくいわれる時代で、市井の私たちにどのようなコミットメントがもてるのかどうか。

それでも、少し思いをめぐらせてみますと、管理栄養学科の学生ならば選手村の調理・食堂関連事業への協力、児童学科や子ども心理の学生ならばベビーシッター、家政保健や教育学科の学生ならば競技場等関連施設の案内、また鎌倉は都心から日帰り可能な場所ですので、期間中相当来訪者は多いことと思います、やや英語に自信のある学生ならば鎌倉の歴史や文化の案内と、何か奉仕活動が出来そうにも思うわけです。

また、オリンピック開催は、20年7月24日から8月9日にかけてとのことですから、これは少し気が早いかも知れませんが、今の学事日程からすれば、補講・試験期間にぶつかるわけです。パラリンピックは、8月25日から9月6日にかけてだそうです。しかし、

半世紀に一度の、もしかすると、今後更に新興国開催も増えることでしょうかから、100年に一度の歴史的な出来事になるわけですから、若い人に出来るだけいろいろなものを生で見させてやりたい、また歴史を実感させておいてもやりたいと思いますので、この辺りの期間をどのように有効に使うのかという問題もやがて出てくることでしょう。

もう一つ私が望むことは、これを機に東京の街をもう一段機能だけに止まらず、景観においてもレベルアップして頂きたいということです。このような大イベントでもない限り、都市空間は絶対に変わりはない。市川崑監督のかつての記録映画「東京オリンピック」の冒頭のシーンに象徴されるように、古いビルが壊され、新しい施設が建てられと、64年当時も「新幹線だ、高速道路だ」と東京の衣替えがあわただしく行われましたが、普請の喧噪の中で、ゆっくり調和を図りながらの都市創りが出来ずに終始しました。当時も日本橋の上に高速道路を架けることへの短慮を指摘する意見はありましたが、「オリンピック、オリンピック」の声にかき消され、今の姿になったわけです。頭上の高速道路の側壁に「日本橋」と書いてあるので、若い人の中には日本橋とは高速道路のことかと誤解している人も多いか。この際、元に戻すことは勿論、東京駅も復元されたわけですから、江戸城の本丸御苑に残る礎石の上に、日本の建築術の粋を集めて、無論木造による天守閣の完全復元を果たして頂きたいものと思います。

東京が日本の首都だと感じさせてくれるものは、東京タワーでも、スカイツリーでもありません、唯一皇居周辺です。一方において未来的に発展している国が、他方において自分たちが自前で創造した文化を誇りをもって復元している、その精神にこそ外国の人たちは尊敬をはらうわけです。パリやロンドンをご覧ください。パリはパリ、ロンドンはロンドンです。爆撃で灰燼に帰したニュールンベルクの街をドイツ人は寸分^{たが}違わず復元しました。それは、彼等が自国文化に誇りをもっているからです。ニューヨークとは違ったトーキョーにこそ人々は魅力を感じるわけで、観光客は飛躍的に拡大するでしょうし、資金の回収も十分成り立つ話だと思います。

今より7年間周到な準備を重ねて、ハードウェア・ソフトウェアの「オ・モ・テ・ナ・シ」を是非実現させたいものです。

[>前のページへ戻る](#)